

“Dance with Heart”  
We are burning with enthusiasm  
in creating national art for the new era.

The Kikunokai Dance Troupe  
Chairperson : Michiyo Hata

発行：舞踊集団 菊の会  
〒161-0031  
東京都新宿区西落合 2-21-23  
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所  
〒601-1254  
京都市左京区八瀬野瀬町 10  
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

# 日本のおどり

Dancing from the heart

## 謹賀新年

良いお正月をお迎えの事と存じます。  
昨年中は大変にお世話に成りました、  
本年も変わらぬ御指導御鞭撻を賜ります様  
お願い申し上げます。



舞踊集団 菊の会  
尾上菊乃里こと  
代表 畑道代

## 「菊の会」のこれから

演劇・舞踊評論家  
藤田 洋



「秋の日本のおどり」を、十一月十九日町田市民ホールで見、つくづくと感心した。このシリーズは、アトリエ公演でもそうだが、第一部が日本舞踊の古典、第二部が踊り風土記で、日本に伝えられている民謡舞踊などを構成する新作である。

今回の古典は長唄「秋の色種」、清元「三社祭」、常磐津「京人形」の組合せだが、いずれも日本舞踊の古格をきちんと学んでいる。

菊の会の特色は、各地に伝わる舞踊をアレンジして構成する踊り風土記だろう。これまで、テーマをいろいろに変えて構成してきたが、今回は三隅治雄作、畑道代構成・振付の「雪の華」、主に金沢を中心とした北陸の風土を十景にまとめている。

テーマは、その地方に生きる人びとの生活に根ざした唄と踊りを二十一世紀の舞台に再生して見せてくれている。

金沢らしい花街の華やぎもあれば、こきりこ節、麦屋節などの労働歌もある。加賀の菊酒のタイトルで「狸々」も出てくる。かと思えば「金沢望郷歌」(五木寛之作詞)も挿入されるといいうように、発想がじつに柔軟だ。長年手がけてきた手法を生かして、見事に造形化した近頃での秀作だと評価したい。

作品の根底には、日本が長年培ってきた美しい伝統を、どのように現代人に伝えるかというメッセージがこめられている。

菊の会は、この方針を長い歳月をかけて貫いてきた。これまで伝統と伝承がはっきり区別されてこなかったが、伝統とは古きよき芸能を現代の視点で創造するのだという認識が広まってきた。能も、狂言も、歌舞伎も、意識がかわってきている。

菊の会の歩んできた路線は、間違えていないし、その姿勢を堅持しながら、さらに大きな力を発揮してほしいとねがっている。

# 言葉を越えた、感動の舞台

ブラジル日系三世

三沢 巖



平成20年8月26日 青木文化長官から文化庁文化交流使の指名書を受ける



**ブ**ラジルに初めて

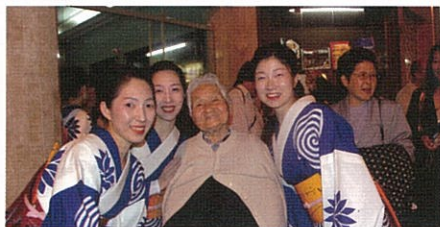
日本人が入国したのが明治41年で、ちょうど100周年をおかえることになりました。サンパウロ州のサントス港まで長い3ヶ月間の旅のあと、どれほど辛い時があったか想像もつかないのです。けれども、移民した日本人の本質を失うことなく、全ての困難を乗り越え立派な日系社会を構築してきました。その努力を尽くしてきた皆さんの前で畑先生をはじめ菊の会が日本舞踊を披露して下さいました。

偉大な企画が「日伯交流年ブラジル移住100周年記念公演」として見事に成功を得る事が出来ました。ブラジルで公演を楽しんだ皆さんからも「すばらしかった」「こんな綺麗な日本舞踊を見たことがない」「感動で胸がいつぱいになりました」の感想が届きました。美を追い求めてきた畑先生の指導の元で熱心に稽古を励んでいる菊の会のひとり一人の自然な結果だと思います。

幸運に私も菊の会の演技を何回も鑑賞しています。昨年の夏ブラジルへ旅立つ前に群馬県の太田市と大泉町地域に住む出稼ぎに来ていたブラジル人のために菊の会の皆さんが特

別公演を開催してくれました。3日間に渡って全4回の公演はほとんど満席で、特に印象に残るのが3回目の公演です。華麗な演技で5歳から15歳までのブラジル人児童およそ700人を夢中にさせました。舞台の上で踊っていた菊の会と一緒に小さな子供たちの顔が悲しんだり、喜んだり、光ったりしていました。言葉を超え文化もさらに超えて日本のおどりは皆の心に大きく響いたことは間違いありません。やはり「菊の会」は美しいです。新しい年も又、私たちを魅了する菊の会の皆さん、畑先生の、益々の御健勝を心から祈っています。

# 日本の深い文化と 美しさに魅せられて



パラナ州議会議員  
パラナ州ブラジル日本人移住百周年記念実行委員長

西森ルイス



ポーツ選手にブラジルを訪れて頂きまして、大きな日伯交流が行なわれた年でございます。

**昨** 年2008年は  
ブラジル日本人  
移民百周年という大き  
な節目の年で、日本  
は4月23日に東京で天  
皇皇后陛下の御臨席  
を賜りまして百周年の  
記念式典が行なわれま  
した。ブラジルでは6  
月18日より23日まで、  
ブラジリア、サンパウ  
ロ、ミナス、リオ・デ  
ジャネイロとパラナ州  
で皇太子殿下御一行様  
の御臨席で歴史に残る  
盛大な記念式典が挙行  
され両国の絆がさらに  
強化されました。

また、日本からは文  
化、スポーツ等多くの  
アーティスト、及び、ス

パラナ州では6月22日、パラナ州日本移民百周年記念式典が約7万人の日系ブラジル人の参加のもとに盛大に挙行され、今でもその感激が忘れられません。この百周年に日本より菊の会のメンバーの皆様がパラナ州、サンパウロ市を訪れられ「日本のおどり 伝統と創造」をテーマとされた日本舞踊をご披露してくださいました。ブラジルの4都市で行なわれた公演はすべて満席で大成功を収めて頂きました。未だその感激は忘れられません。菊の会の皆様による本当の伝統ある日本



舞踊をブラジル公演で拝見させて頂き、日本の深い文化と美しさに魅せられました。菊の会代表の畑道代先生を始め、原団長、谷元副団長及びメンバーの皆様にご心よりお礼を申し上げます。

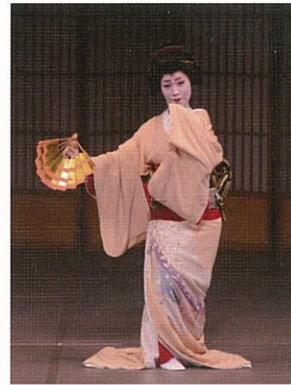
今後も、素晴らしい日本の文化、舞踊を全世界に是非伝えて頂くことを強く望んでおります。

菊の会自主公演 a newly choreographed dance piece "YUKI NO HANA"

# 北陸の神髄を美しく踊り上げた『雪の華』

舞踊評論家  
松蔭大学教授

うらわまこと



## 畑道代さんは素晴

らしい日本舞踊家ですが、それにとどまらず、菊の会を主宰、感動的な、そして楽しい作品を発表、国内だけでなく、海外でも積極的に活動しています。この9月にも日

川県を舞台に、雪から水、そして川の流れを縦糸に、季節をめぐる人々の生活、祭り、地名産、そして名所や風流を横糸に、民謡や歌曲など土地ゆかりの音楽に乗せ、踊りによって美しく織り上げていくものです。それらをナビゲートする平野啓子さんの語りさらさら華を添えています。

伯交流年・ブラジル移民百年の交流事業として、文化庁の文化交流使の肩書をもって公演、非常に好評を得たとのこと、大変に嬉しく思います。

ファンタジックな群舞に始まり、ドラマティックなもの、郷土色豊かなもの、艶やかなもの、さらにダイナミックなもの、そして全員の賑やかな北陸賛歌までバラエティに富んだ十景。出演の皆さんも、ベテラン、中堅、そして新鋭、それぞれ優雅に舞い、生き生きと演じて楽しい舞台となりました。

この帰国後初の新作が、第一部に続いて上演された踊り風土記『雪の華』(三隅治雄作、畑道代 舞踊構成・振付)です。この作品は、北陸は富山県・石

11月18日タワーホール船堀にて

# 菊の会、世界を結ぶ



菊の会には、世界のどの町で踊られても、私たちは恥ずかしくなく、誇りに思える凄さがあります。それは「日本の伝統芸能」を超えた、地球で生きるひと「みんなの踊り」だからです。みんなの踊りというの

は、踊らない・踊れないひと誰でも「心を躍らせる」ことができるからです。

代表の畑先生が凄い。踊る前から、ブレない佇まいの存在そのものに、既に世界があるからです。つくって踊る、というのではなく「見えてきたまま、あるがままを表現」しているのだと私は感じます。・・それは、私たちが今まで訪れたこともないのに、何千年も前から知っていたように思え、誰の心にも棲んでいる生命そのものが目覚めてきて、ひとや自然と一体になれる不思議な瞬間に、私たちが誘ってくださるからだと思えます。もう、カタがあつてカタがない、つまり民族も、時も、国境も超えて調

和できる術を心得ているからでしょう。だから「みんなの踊り」であり、菊の会なのです。

その仲間の美男美女がまた素敵で、私は隠れファンになつていのです。それは師匠が感応される世界に「集中」する力があり、踊りを投影させたり、新たな創造世界を考え、それをみんなで共有する厳しさ・温かさ・楽しさを持つておられるからです。修煉された優しく鋭い踊りとともに、例えば針のムシロに座らされて動けない・踊れないように見える時でも、私たちの心を揺り動かす、踊ることを超える瞬間を私たちに黙示し提供していただけ。・・やはり頼もしい集団でもあるようです。

日本現代音楽協会会長(作曲家)

坪能克裕

Dancers requirements

# 舞踊家の条件



日本大学教授  
丸茂 祐佳

「師匠」に対する「舞踊家」には大きく分けて二通りの解釈があります。端的に言う、一つはリサイタルなどで古典の技を披露したり作品の創作活動を行う人、もう一つは舞台上に立つて踊ることを職業にしている人。ここでは菊の会のメンバーにふさわしく、後者を対象にお話をしましょう。

さて、日本では舞踊を踊ることを職業にするのは困難を伴うことですが、韓国・中国等では自国の伝統舞踊・演劇の人材教育が充実し、その後の進路も舞踊団・京劇団等が整備されています。筆者は文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業選定の本学芸術学部NANAプロジェクトの事業の一



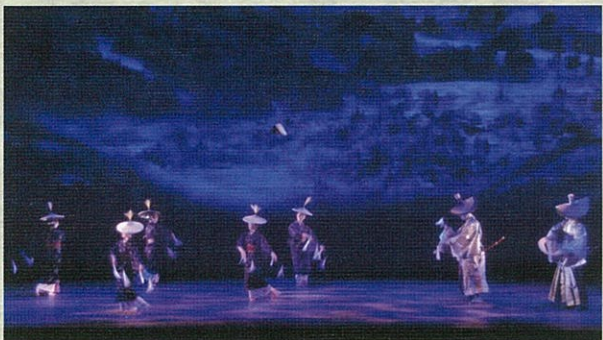
長唄「秋の色種」



清元「三社祭」



常磐津「京人形」



「こきりご節」(富山県)



外国からのお客様



「戦金山」 武旦役の授業風景

環としてアジア数ヶ国の視察を行ってきました。それらの中から、ここでは中国戯曲学院にみる京劇のケースを紹介いたします。

授業の方針は、将来、指導者になる人と俳優になる人とに分けられています。後者は演目の役ごとにクラスが設定され、1クラスは選ばれた学生3名だけ。彼らは私が見ても前者の学生に比べ、男性は背が高く、女性は容姿が美しく、みんな華のある学生たち。そして最終的には更に絞られ、1名を決定するのですが、私の視察日は学期が始まって2週間にもかわらず、どの先生も一番上手な学生をすでに自分の右側に置き、その学生を熱心に指導

していました。

簡単な動きでも「質を正しく教えること」を大事にし、「心から外に出さなければいけない」「停顿(間・マブのこと)は教えられない、自分で悟らなければいけない」「円やかな花になって欲しい」など学生に出す注意は日本舞踊にも相通じる奥義であるのに関心が持たれますが、このような厳しい育成システムはその後の環境が整備されていればこそでしょう。

京劇を例に取りましたが、舞踊家の条件として必要なのは、まず私は社会で舞踊が活用される環境作りだと思います。



# 「菊の会」の人たちが踊る姿を観て感じたこと

邦楽と舞踊出版社

## 中野 義徳

昨年10月末のある日曜日の夕刻、私はプログラムを見るまもないまま国立劇場へ飛び込んだ。この日は他にも行くところがあつて、同様にマークしたこの演奏会にやっとなんか合つたのだ。しかし、入り口で「最後の演目です」といわれて慌てて場内に入って「アレっ？」と思つた。幕が開いて、松羽目背景に地方が並んでいる。大喜利所作事『釣女』の始まりのようであつた。しかも、現れた面々にどこか見覚えがあつた。常磐津文字蔵父君の常磐津斎樹十三回忌の追善と「常磐津百閃会」五十回記念の演奏会の筈である。三味線は勿論文字蔵ほか、浄瑠璃もお馴染みの千勢、初勢、光勢と太夫を従えた、立浄瑠璃はしかし見覚えのない顔だ。

私の大方の「？」はプログラムを見て氷解した。一ヶ月前、ブラジルへ飛んで文化交流使の重責を果たし終えたばかりの、太郎冠者の役の原聰団長以下の「菊の会」メンバーは、場内の笑いを誘いながら、彼らの特徴でもあつた向きさといつぱいで舞台を務めていた。ハレの立浄瑠璃を勤めた小島三雄こと雄字太夫が「菊の会」の後援会長だという縁からだと、あとで、楽屋で畑道代表から伺つた。

長丁場の「菊の会秋の公演」全国ツアーも、12月3日の埼玉県富士見市の公演でこの年も了えた。創作『雪の華』とともに清元『三社祭』の二人の若者の熱演を観ながら、私は国立での『釣女』を思いだして感慨に耽つた。いままで、尾上流の公演に助演したことなどあつても、よその会での彼らを観ることはなかつた。人様の会では、観る方も割に客観的になれる。今、私には彼らの成長ぶりが、自分の子どもの成長する様を観るように嬉しかつたのである。



常磐津「釣女」



菊の会友の会会長の小島三雄氏(左から4人目)文字蔵氏(左端)



金沢市山出保市長表敬訪問



右から三隅治雄先生、畑道代表 映像コーディネーターの寺門邦次先生



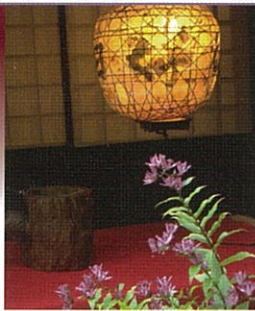
和傘作りの名人 松田弘様が激励にお出で下さいました



# Coffee Break

## 京都の風情に出会えて

天舞グループ二期生  
武藤 啓子



平成10年秋、幸いにも私は  
畑道代先生から、京都で新た  
な勉強をとお話を頂き、古く  
から上木屋町の鴨川沿いに佇  
む先生のご実家『旅館 畑』  
で伝統を守るお母様に、色々  
と教えて頂きながら、踊りを  
勉強させて頂き事となり、京  
都へ来させて頂きました。

それは、私にとって衝撃的  
な毎日の始まりで、全てが今  
までの生活とは別世界でした。  
それまでの私はビルに囲まれ  
た新宿育ちで、風情とは全く  
かけ離れた生活をしていたか  
らです。



朝目覚めて窓を開けると東山

から朝日が昇り、きらきらと  
輝く鴨川の水辺には白鷺が佇  
む、その光景を眺めて一日が  
始まる、という様な生活に変  
わったのです。そして晩には  
山間に月が沈む。中秋の名月  
には、思わずあまりの美しさ  
に見とれて一曲踊ってしまっ  
たほどです。

悠久の昔からこのようにし  
て俳句や踊りが生まれてきた  
のだと、京都に来て初めて感  
じることが出来ました。

また、お部屋ごとに季節に  
合わせたお軸やお花をかける、  
四季のある日本の文化の美し  
さ。お母様が、あしらい一つ  
で全く違うお部屋の表情にな  
る事を日々教えて下さり、感  
謝の思いで一杯です。

先日、素晴らしいお菓子を  
見せて頂きました。それは、  
源氏物語に出てくる碁に興じ  
る姫君達の様をイメージした  
お干菓子でしたが、雅な紋様  
が描かれ、色の美しさが何と  
も言えない愛らしいお菓子で  
した。わずか2センチ程の小  
さいお菓子にどれだけの想い  
が込められているのか・・・  
その奥深さと表現力に感嘆し  
ました。

私も一つの曲に込められた  
意味や情景をよく理解して、  
その心を躍れる自分になっ  
て行ける様、今の環境に感謝し  
て日々精進していきたいと思  
っています。



天舞グループ二期生  
武藤 啓子

【プロフィール】  
10歳より畑道代に師事  
1981年 舞踊劇「津軽はるあき」にて初舞台。  
1994年よりイタリア・ネパール・インド公演に参加  
2002年 東京新聞社主催 全国舞踊コンクール  
邦舞第1部に於いて入賞  
現在京都の公演メンバーの中核として活躍中

# information

## 2009年菊の会公演予定

新春アトリエ公演

【日本のおどり～初春に舞う～】

第1部 「早春花」  
「身替座禅」

第2部 とうざいなんぼく

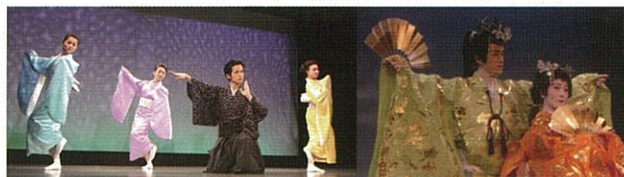
会場：菊の会スタジオ

1月16日(金) 12:00 / 15:00 / 18:30

17日(土) 12:00 / 15:00

18日(日) 12:00 / 15:00

※前売りチケット4200円【全席自由】(当日4500円)



菊の会自主公演

【日本のおどり～春陽に舞う～】

3月18日(水) さわやかちば県民プラザ(千葉県柏市)

19日(木) 越谷サンシティ小ホール(埼玉県越谷市)

24日(火) かめありリリオホール(東京都葛飾区)

時間/14:30・18:30 開演(各会場共2回公演)

※前売りチケット5,000円【全席自由】(当日5500円)



【友の会総会・懇親パーティー】

4月25日(土) 東京會館(丸の内本館)

11:00 友の会総会

12:00 友の会懇親パーティー

菊の会のステージを御覧頂きながら東京會館の美味しいお料理で  
最高の一日を！！

皆様のご参加を心からお待ちしております。



次代を担う若者達の舞踊会

【第11回さつき会】

5月31日(日) サンパール荒川(東京都荒川区)

【第35回菊の会教室発表会】

会場：板橋区立文化会館

8月8日(土) 前夜祭

8月9日(日) 教室発表会

※入場にはチケット(無料)が必要です。

※チケットは菊の会事務局又は出演者よりお渡ししております。

菊の会の舞踊教室総勢150名以上が繰り広げる年に一度の舞台  
です。是非貴方もいらっしやいませんか？

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。

■お問い合わせ

菊の会事務局 03(5983)6001

京都八瀬研修所 075(712)8701